# えべつ未来づくりビジョン

## （第7次江別市総合計画）

**えべつまちづくり未来構想**

令和6（2024）年度 ～ 令和15（2033）年度

# ごあいさつ

このたび、江別市では、「えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）」を策定し、将来都市像「幸せが未来へつづくまち　えべつ」を掲げて、令和６（２０２４）年４月から新たなまちづくりをスタートさせます。

時代は今、大きな変化の流れの中にあります。

世界的に見ると、新型コロナウイルス感染症の流行によって生活様式が大きく変化したほか、地球温暖化に伴い激しさを増す自然災害の多発や、国際紛争によって生じた物価高騰など、世界･地球規模の出来事が、私たちの身近な生活にも大きな影響を及ぼしています。

また、日本全体では、少子高齢化の進行と本格的な人口減少が始まっており、直近の国勢調査結果において人口が増加した本市においても、今後は、この流れを受けて人口が減少していくことを見込んでいます。

こうした状況から、行財政運営を取り巻く環境についても厳しさを増すことが予想されるため、人口減少対策などの重要な課題に対し、これまで以上に柔軟かつ大胆に対応しながら、新しい時代に挑戦し続け、様々な困難を乗り越えていく必要があります。

今回の計画を策定するにあたっては、市民５，０００人を対象に「まちづくり市民アンケート調査」を実施したほか、市民の皆様から直接意見を伺う「えべつの未来づくりミーティング」において、中学･高校･大学生をはじめ、子育て中の方や地域で活躍される方など３０のグループに、市の若手職員も加わり、まちの課題や未来について意見を交わしました。

市民参加の取組を通じて得られた意見を踏まえて作成した計画案は、学識経験者や各関係団体の代表者、市民委員で構成される行政審議会において審議いただいたほか、本計画の基本的な構想部分については、市議会における審査を経て、議決いただきました。

このように、本計画は、江別市にかかわる多くの皆様とともに創り上げた大切な計画です。

これからも「江別市に住んで良かった」、「このまちにずっと住み続けたい」と思っていただけるよう、「えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）」のもと、市民の皆様と手を取り合いながら、着実にまちづくりを進めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協力いただいた全ての市民の皆様、関係者の皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

令和6（2024）年3月

江別市長　後藤好人

幸せが未来へつづくまちえべつ

# えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）の体系

＼＼ 将来都市像 ／／

## 幸せが未来へ つづくまち えべつ

### まちづくりの基本理念

- ☑ いつまでも元気なまち
- ☑ みんなで支え合う安心なまち
- ☑ 子どもの笑顔があふれるまち
- ☑ 自然とともに生きるまち
- ☑ 新しい時代に挑戦するまち

まちづくり
政策
1
自然・環境
2
産　業
3
福祉・保健・
医療
4
安全・安心
5
都市生活
6
子育て・
教育
7
生涯学習・
文化・
スポーツ
8
協働・共生
9
計画推進

# もくじ

## 第1章　はじめに


1　江別市の概要 …… 10
- 歴史 …… 10
- 気象 …… 10
- 自然 …… 10
- 立地 …… 11
- 産業 …… 11

2　江別市の強み …… 12

## 第2章　えべつまちづくり未来構想


1　江別市総合計画について …… 14
（1）計画を策定する目的 …… 14
（2）計画の構成と期間 …… 14
（3）策定する上で大切にしたこと …… 16

2　まちづくりの主な課題 …… 20
（1）人口減少対策 …… 20
（2）まちの経済活性化 …… 21
（3）デジタル技術の活用 …… 21
（4）脱炭素･循環型社会への対応 …… 22
（5）地域のつながりづくり …… 23
（6）共生社会への対応 …… 24
（7）持続可能な行財政運営 …… 25

3　めざすまちの姿 …… 26
（1）まちづくりの基本理念 …… 26
（2）将来都市像 …… 27
（3）将来人口の考え方 …… 28
（4）都市づくりの方向性 …… 29

4　まちづくり政策一覧 …… 30

## 第３章　まちづくり政策


### 政策１ 自然･環境

（1）人と自然の共生 ･････････････････ 36
（2）循環型社会の形成 ･････････････ 37

### 政策２ 産業

（1）都市近郊型農業の推進 ･････････ 38
（2）商工業の振興 ･････････････････ 39
（3）観光による産業の振興 ･････････ 39

### 政策３ 福祉･保健･医療

（1）地域福祉の充実 ･････････････････ 40
（2）健康づくりの推進と
地域医療の安定 ･････････････････ 41
（3）障がい者福祉の充実 ･････････････ 41
（4）高齢者福祉の充実 ･･････････････ 42
（5）安定した
社会保障制度運営の推進 ･･････････ 42

### 政策４ 安全･安心

（1）安全な暮らしの確保 ･････････････ 43
（2）地域防災力の向上 ･･････････････ 44
（3）消防･救急の充実 ･･････････････ 45

### 政策５ 都市生活

（1）市街地整備の推進 ･･････････････ 46
（2）暮らしを支える交通環境の充実 ･･･ 47
（3）暮らしを豊かにする技術の活用 ･･･ 47

### 政策６ 子育て･教育

（1）子育て環境の充実 ･･････････････ 48
（2）子どもの教育の充実 ･････････････ 49

### 政策７ 生涯学習･文化･スポーツ

（1）生涯学習の充実 ･････････････････ 50
（2）ふるさと愛の醸成と
地域文化の継承 ･････････････････ 51
（3）市民スポーツ活動の充実 ････････ 51

### 政策８ 協働･共生

（1）協働のまちづくりの推進 ････････ 52
（2）共生社会の形成 ･････････････････ 53
（3）国際交流の推進 ･････････････････ 53

### 政策９ 計画推進

（1）自主･自立の市政運営の推進 ･････ 54
（2）透明性と情報発信力の高い
市政の推進 ･････････････････････ 55

### 参考資料

- まちづくり政策に関連する
主な個別計画 ･････････････････････ 56
- 計画策定の経過等 ･･････････････････ 57
- 第7次江別市総合計画の諮問 ･･････ 60
- 第7次江別市総合計画の答申 ･･････ 61
- 持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の
17のゴール ･････････････････････ 64

# えべつ
# まちづくり
# 未来構想

第1章
・江別市の概要
・江別市の強み

第2章
・江別市総合計画について
・まちづくりの主な課題
・めざすまちの姿
・まちづくり政策一覧

# 第1章 はじめに

## 1 江別市の概要

HISTORY

### 歴史

アイヌ語の「ユベオツ」（サメのいる川）、「イ・プッ」（大事な場所への入口）などがまちの名の由来とされる江別市は、古くからこの地を生活の場としていたアイヌの人々、今日の礎（いしずえ）を築いてきた屯田兵や北越殖民社の人々などによって形作られてきました。

明治４（１８７１）年に、宮城県涌谷領（わくやりょう）から２１戸７６人の農民が移住し、明治１１（１８７８）年には、屯田兵１０戸５６人が入地して、明治政府による開拓使府令が布達され、江別村が誕生しました。

その後、各地から屯田兵らが入地し、計画的な開拓が進められ、大正５（１９１６）年に町制が施行、昭和２９（１９５４）年には市制が施行され、江別市が誕生しました。

WEATHER

### 気象

四季を通じて風が強く、１１月下旬から翌年４月初旬までが降雪期で、年間の最大降雪量は、昭和６０（１９８５）年度に記録した８６７cm、最深積雪量は、令和４（２０２２）年２月に記録した１７２cmです。

（※ 雪に関する数値は、江別市土木事務所での計測値）

NATURE

### 自然

市内には、世界有数の平地林である「道立自然公園野幌森林公園」をはじめ、一級河川「石狩川」などの豊かな自然環境が広がっています。

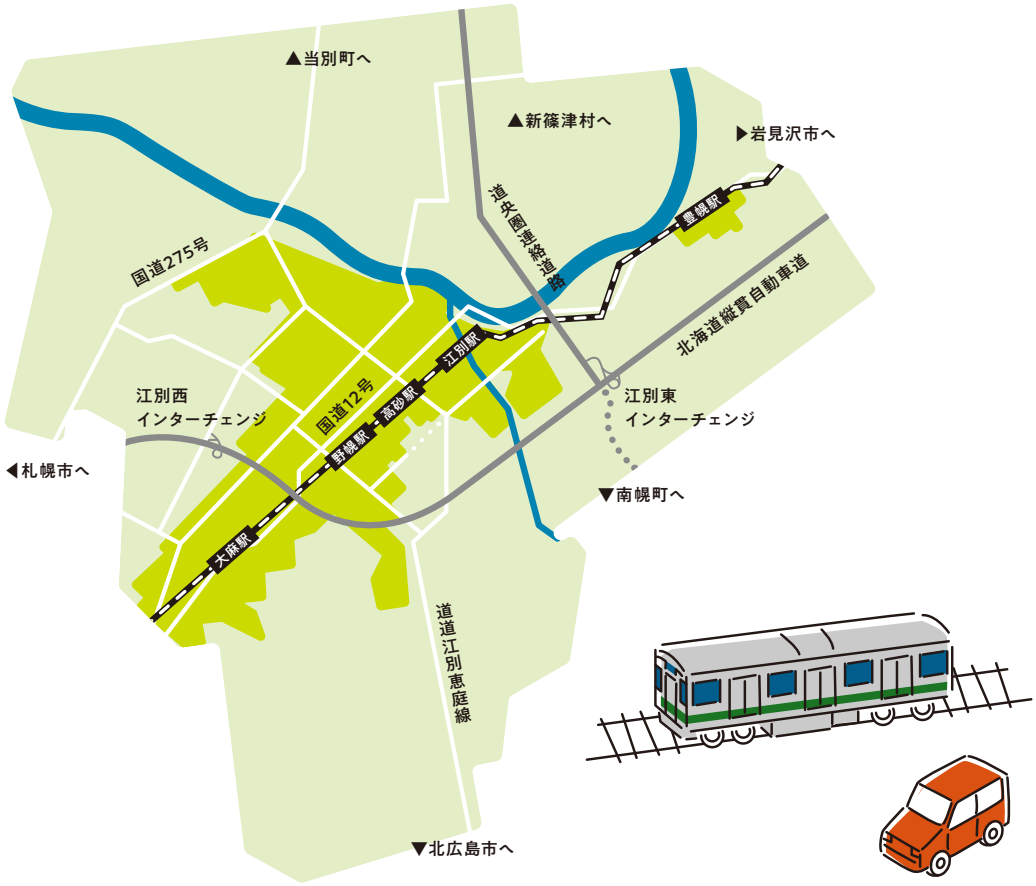
また、身近な緑として親しまれている多くの公園や、農村地帯に残る耕地防風林などもあります。

LOCATION

# 立地

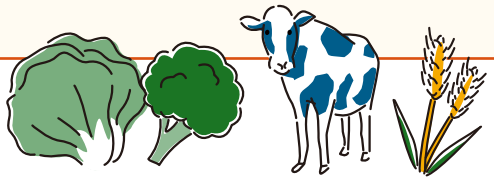
石狩平野の中央に位置し、全体的にほぼ平らな地形で、市内には、日本三大河川の一つである石狩川が流れ、千歳川と夕張川の合流点でもあります。

また、市内には、幹線道路である国道１２号や、道央と道北を結ぶ国道２７５号、千歳市と小樽市を結ぶ国道３３７号が通るほか、高速道路（道央自動車道）が市中央部を通り、江別東・江別西の二つのインターチェンジがあります。




INDUSTRY

# 産業



農業では、市の面積の約４０％が農地であり、稲作、畑作、酪農、畜産などにより、多彩な農畜産物が生産され、市内には、小麦製品や乳製品などの特産物を生かしたお店なども多くあります。

また、製造業では、特産品である「れんが」などの窯業製品のほか、金属加工製品や食料品など、様々な製品が製造されています。

## 2　江別市の強み

### 子どもの転入超過数

**6年連続**

**全国 20 位以内**

充実した交通アクセスや、宅地の取得のしやすさ、豊かな自然環境などから、14歳以下の子どもの転入超過数が、平成30（2018）年から6年連続で全国20位以内となり、多くの子育て世代に選ばれています。
（※ 総務省 住民基本台帳人口移動報告）

### 人口に対する大学生の割合

**道内 第 1 位**

市内には、四つの大学（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）、一つの短期大学（北翔大学短期大学部）があり、それぞれが個性的な学部・学科を設置し、専門性の高い教育が行われています。

また、市内の大学・短大では、約1万人の学生が学んでおり、江別のまちは、若者が集い、行き交い、活気にあふれています。（※令和4（2022）年 道内35市調べ）

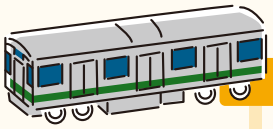
**道内 2 番目に**

### パートナーシップ宣誓制度を導入

パートナーシップ宣誓制度は、LGBT等の性的少数者（性的マイノリティ）の当事者を含むカップルが、互いを人生のパートナーとして宣誓し、市が両者に対して証明書を交付する制度です。

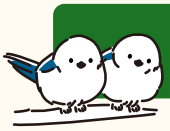
江別市では、性的マイノリティの方々が自分らしく、いきいきと暮らすことができる社会を目指し、令和4（2022）年3月にパートナーシップ宣誓制度を導入しました。

### 充実した交通アクセス



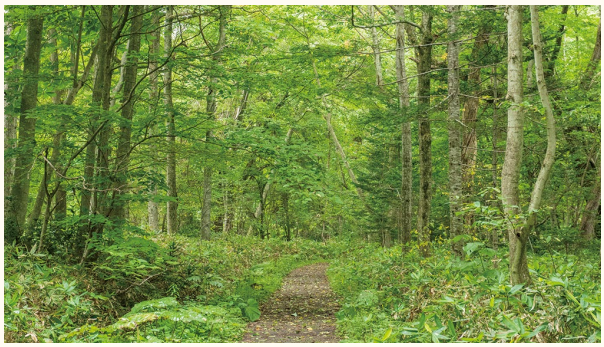
江別市のとなりに位置する札幌市への移動は、電車・自動車ともにアクセスが良好です。また、市内には、五つのＪＲ駅をはじめ、幹線道路である国道12号や、道央と道北を結ぶ国道275号、千歳市と小樽市を結ぶ国道337号が通るほか、高速道路のインターチェンジが二つあるなど、道内各地への移動がとても便利な立地です。

JR札幌駅までの所要時間（鉄道）



## 自然の宝庫

### 「野幌森林公園」



江別市には、道立自然公園野幌森林公園があり、市の面積の約10%を占めています。

公園の面積は、2,000ヘクタールを超え、大都市の近郊にある大面積の平地林としては、世界的にも貴重な存在です。カツラ、ハルニレ、ミズナラなどの樹木をはじめ、野草やきのこ、また、シマエナガ、クマゲラ、エゾフクロウなどの野鳥や動物、昆虫なども生息しており、まさに自然の宝庫です。

## 北海道遺産

### 「江別のれんが」

明治期において、日本の近代化に大きく貢献した「れんが」。

江別市は、れんがの一大産地で、市内では、れんが工場が操業しており、「江別のれんが」は北海道遺産にも認定されています。

また、市内には、れんがを使った様々な建築物が多くあり、温もりやレトロな雰囲気を感じることができます。

## 耕地面積

**石狩管内6市中 第1位**

江別市は、道央圏の大都市に隣接しながらも、市の面積の約40%が農地で、都市近郊型農業が盛んなまちであり、地産地消を推進する取組や農業者による6次産業化なども積極的に進められています。
(※令和3(2021)年)

### ハルユタカの作付面積

**道内第1位**

小麦「ハルユタカ」は、初冬まき栽培技術の確立と普及によって生産が安定し、さらに、市内の産学官連携によって開発された「江別小麦めん」は、小麦の生産から製粉・製麺・消費までを市内で完結させる地産地消の取組として注目されたことにより、「麦の里えべつ」として市内外に知られています。(※令和3(2021)年)

### ブロッコリーの収穫量

**道内第2位**

### レタスの収穫量

**道内第3位**

野菜では、ブロッコリー、レタス、白菜などが道内でも主要な産地となっているほか、てんさいやスイートコーンなどの生産も盛んです。

なお、畜産においては、乳用牛が4,000頭以上、肉用牛が800頭以上飼育されており、特に、肉用牛の一部は「えぞ但馬牛」のブランド牛として認知度を高めています。
(※いずれも令和3(2021)年)